

研修体験記 1

名前：曾川正和

職種：医師

所属：済生会新潟第二病院

2月14日日曜日夕方に毛呂駅着き、徒歩5分の埼玉医科大学キャンパス内にある丸木記念館に宿泊した。翌朝、キャンパス内の停留所からバスに乗り10分くらいの埼玉医科大学国際医療センターに着いた。

患者さんたちに紛れて、少々緊張しながら、一面ガラス張りの真新しい建物の正面玄関に入り、3階の心臓リハビリテーション科へ行くと、すでに朝の一仕事を終えた指導教官の牧田茂先生が私を出迎えてくれた。

週の前半は、心臓内科、および心臓外科の病棟リハビリを見学させていただき、豊富な症例での疾患別リハビリの実際を勉強でき、我々の病院で行っていた心臓リハビリテーションの不十分な部分が見えてきて参考になった。後半は、おもに心肺運動負荷試験や嚥下造影の実地を学ばせていただいた。特に、心肺運動負荷試験の症例が多く、1週間を終えると自分でもできるような自信がついた。

1週間のプログラムはできており、事前に心臓リハビリテーションのテキストを読んでおいたのも、後の指導士試験に役立った。また、症例報告10例は、かなりの負担になると聞いていたが、十分な時間をいただき、余裕を持って作成できた。週の終わりには、緊張もとれ、和やかな雰囲気での研修ができた。

自分たちの病院で心臓リハビリテーションを行なっていると我流に陥りやすいが、国際医療センターのような多くのPT、ST（専従のSTがいるのは特筆に価する）、医師、看護師に指導を受けることで、標準的な心臓リハビリテーションの実施が可能となると思われる。今後心臓リハビリテーション指導士を目指す方に、この研修制度を強くお勧めしたい。

最後に、ご指導いただいた指導教官をはじめ関係各位にこの紙面をお借りし厚く御礼申し上げます。